慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中国語の "上 (SHÀNG)" の複合的語彙ネットワーク
Sub Title	汉语 "上 (SHÀNG)" 的复合语义网络图
Author	嚴, 馥(Yen, Fu)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2021
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.17, (2020.) ,p.77- 100
JaLC DOI	
Abstract	The purpose of this paper is to construct a word network for the polysemous word '上 (SHÀNG)'. This same character is found in Japanese, and it has a similar prototypical meaning, but the usage of '上 (SHÀNG)' and '上 (ウエ)' are not totally corresponding, and we see many wrong uses of '上', not only in Chinese learners but also in Japanese learners. One of the reasons for these wrong uses is that the semantic relation of the polysemous word is not taken seriously in vocabulary education from the beginning. Therefore, in this paper, I made an overall word network for '上 (SHÀNG)', which also contains the meanings of synonyms such as '起 (QǏ)' and '升 (SHĒNG)', and it also extends beyond the differences in word classes.
Notes	研究論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20200000-0077

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中国語の“上（SHÀNG）”の複合的語彙ネットワーク

嚴　　馥

Abstract

The purpose of this paper is to construct a word network for the polysemous word ‘上（SHÀNG）’. This same character is found in Japanese, and it has a similar prototypical meaning, but the usage of ‘上（SHÀNG）’ and ‘上（ウエ）’ are not totally corresponding, and we see many wrong uses of ‘上’, not only in Chinese learners but also in Japanese learners. One of the reasons for these wrong uses is that the semantic relation of the polysemous word is not taken seriously in vocabulary education from the beginning. Therefore, in this paper, I made an overall word network for ‘上（SHÀNG）’, which also contains the meanings of synonyms such as ‘起（QǏ）’ and ‘升（SHĒNG）’, and it also extends beyond the differences in word classes.

1．研究背景

上shàng[i]は第二言語教育としての中国語教育の初級段階における重要単語の一つであり、典型的な多義語である。例えば筆者が日々使っている『インテンシブ中国語』というテキストには（1）～（8）に示されるように、「最上部の表面、表面、範囲、（抽象的）範囲、下から上へ移動する、乗車する、（心理的）接触、予期した目標・程度・状態に達する」と数多くの意味が示されている。日本語訳には同形語の上ウェはあるが、直接そう訳すことができるのは（1）最上部の表面という意味のみである。

（1）a．桌子上有课本。
　　b．机の上には教科書がある。
（2）a．怪不得菜馆儿牌子上都写着“清真”呢。
　　b．どうりでレストランのどの看板にも「清真」と書いてあるわけだ。

(3) a. 山下和白雪两个人在阳台上一边看着黄浦江一边聊天。
b. 山下と白雪は、ベランダで黄浦江を眺めながら、お喋りをしました。
(4) a. 我以前在历史课上学过秦始皇是个残酷无情的暴君，但是他统一中国的伟绩可以肯定，对不对？
b. 前に歴史の授業で、秦の始皇帝は残虐な暴君だと習ったけど、中国統一の偉業は肯定できるんじゃない？
(5) a. 走上来
b. (歩いて) あがってくる。
(6) a. 上了车以后可以补票。
b. 乗ってから買い足せるから。
(7) a. 山下好像喜欢上白雪了。
b. 山下は白雪が好きになってしまったらしい。
(8) a. 我好不容易考上北京大学了。
b. やっと北京大学に合格した。

しかし、最上部の表面という意味であっても、上と上ㇾの使い方は完全には一致しない。三宅（2012）によれば、「日本語では必ずしも『～の中』や『～の上』が必要ないのに、中国語では“里”“上”が必要となる場合、中国語に訳す際に間違いが起こりやすいですから注意が必要（p.32）」ということである。上が必要となるか否かは、語の意味に含まれる場所としての性質によって判断される（荒川1997，pp.79-80，三宅2012，p.32）。「日本語で『～ニ～』にはいる名詞の多くが、中国語ではトコロ化して（“里”“上”をつけて）あらわれる（荒川1997，p.74）」という指摘からわかるように、(9b) ～ (12b) の书架、床、椅子、晒干のようなモノ名詞は、方位詞を用いて表面を言語化しないと文として成り立たない[ii]。

(9) a. 本ダナニ置ク　　b. 放在书架上
(10) a. ベッドニネテイル　　b. 躺在床上
(11) a. 椅子ニスワッテイル　　b. 坐在椅子上
(12) a. トンボハモノホシザオニトマッタ　　b. 蜻蜓落在晒干上　　（荒川1997，p.75）

異なる言語体系に属している以上、漢字が同形であっても、上と上ㇾの意味の拡張に関わる認知のプロセスや、それによって形成される意味の枠組みが同じであるはずがない。にもかかわらず、字形が同じで基本的意味が類似するため、「日本語を学ぶ中国人学習者は中国語の『上』を使う感覚で日本語の『(の) 上』を使ってしまい、中国語を学ぶ日本人学習者は日本語

の『（の）上』を使う感覚で中国語の『上』を使ってしまうが、いずれも多くの誤用を生んでしまっている（李活雄・张麟声2001，pp.66-67）」ということになる。この問題点は见树不见林（木を見て森を見ず）、すなわち部分にとらわれて全体を考えられないことに大きく関係するのではないだろうか。まず、学習者は「外国語の語の意味を辞書で当たられる点として理解し、面としての境界、広さ、構造は点として母語に対応する語と同じであると無意識に思う（今井2014，p.343）」ということで、母語と外国語のズレに気づかない。

外国語教育の面からいえば、「語彙学習は音声や文法に比べて一般的に軽い比重で扱われ、学習者の自習に多くをゆだねられてきた（今井2014，p.343）」というのが現状である。多義語の各意味は通常別々に導入される[iii]が、文法項目の総復習と同様に、全ての意味と用法をまとめて説明することはほとんど行わない。そうすることによって、抽象的な意味だけでなく、基本的な意味でさえ正確に把握できない。根本的な解決には、多義語の意味の枠組み及び、意味と意味の間の関連性を重視する方法がある。そこで本稿では、認知意味論という立場から、空間概念〈上〉の日本語の関連表現と対照させながら、中国語の代表格である上の複合的語彙ネットワークを構築していきたい。

2．上の意味

上は方位詞、名詞、方向動詞、方向補語と４つの文法的機能を有し、様々な異なる意味を持つ。表１は『现代汉语词典』『现代汉语八百词』『现代汉语学习词典』が記述する意味をまとめたものである。

【表１】中国語の上の意味　（筆者作成）

意　　味	现代汉语词典	现代汉语八百词	现代汉语学习词典（商）	现代汉语学习词典（上）
由低处到高处；由一处到另一处 （低い場所から高い場所へ行く、ある所から別の所へ行く）	○	○	○	○
向上级呈递 （上級機関、上司などに書面、意見書などを差し出す）	○	○	○	
达到；够一定数量或程度、一定的目的或标准 （ある数量、程度、一定の目的、規準に達する、足りる）	○	○	○	○
把饭菜等端上桌子（テーブルに料理を出す）	○		○	
向前进（前へ向かって進む）	○	○		○
到；去某个地方（行く、でかける）	○		○	○

意　　味	現代汉语词典	现代汉语八百词	现代汉语学习词典（商）	现代汉语学习词典（上）
次序靠前的，或指前一半时间或刚过去的时间。 （順序が時間的に前寄りであることや、ある時間の前半分、あるいは過ぎ去ったばかりの時間）	○	○	○	○
到规定时间开始工作或学习等 （決まった時間に日常の仕事あるいは勉強などを始める）	○	○	○	○
动作开始并继续（動作の開始と継続）		○	○	○
出场（出場する、登場する）	○	○	○	○
登载（掲載する）	○	○	○	○
动作有结果，有时兼有合拢的意思 （動作の結果を表す。ときには合わせる、くっつくという意味も持つ）		○		
加；添；施加（加える、増加する、ほどこす）	○	○	○	○
拧紧发条（ゼンマイをきつくねじる）	○	○	○	○
把一件东西安装在另一件东西上，把一件东西的两部分安装在一起（ある部品を物につける、二つの部品を１つに組み合わせる）	○	○	○	○
涂；擦（塗る、つける）	○	○	○	○
物体的顶部或表面（物体の最上部あるいは表面）	○	○	○	○
范围（範囲）	○	○	○	○
方面（方面）	○	○	○	○
位置高（位置が高い）	○	○	○	○
等级高或质量高（等級や質が高い）		○	○	○

渡辺（1976，pp.88−94）は上の意味、特に抽象的な意味に力点を置き、その前の名詞のタイプに基づいて整理した。その内容は（a）～（e）である。

（a）（ある物体の）上：桌子上/椅子上/炕沿上/货架上/马背上/地上/坡上/台上/头上/顶上/自行车橡皮踏脚上/车上/柜台上/手上

（b）（ある物体の）表面：信上/本子上/纸上/单子上/墙上/木板上/布鞋底/泥板上/脸上/额头上/窗户上/车上/身上/手上

（c−1）ところ（体の一部）：手上/嘴上

（c−2）　ところ（物体）：小疵斑上/窗户上（例：夜间，家家户户的窗户上都闪耀着光明）/柜台上（例：此刻师傅又恰恰不在柜台上）

（c−3）　ところ（場所）：角子上/转弯角上/村头上/露天场地上/会场上/战场上/操场上/右角上/叉路上/汽车展上/集上/百货市上/菜市上/工地上/广场上

（d）　その場：会上/典礼上/小组会上/电话上/世上/世界上/社会上/班上/部队上

（e）　面：基本上/结构上/方法上/思想上/工作上/生活上/实际上/质量上/行动上/生产上

3．上の相違点

先行研究では上と上ウェ、上がるアガル、上げるアゲル[iv]との違いについて多く言及されている。本章では使用の必要性と語の意味に内包する空間概念という二つの観点より先行研究から得た知見をまとめる。

3.1　方向動詞・方向補語の上は「目的地」を含む

移動には移動物、経路、起点、目的地、様態など様々な要素が含まれるが、移動物に関しては、全体的移動と部分的移動に分けられる。中国語ではそれぞれ表現が違い、前者は上、後者は起qǐを用いて表わす。両者の違いは移動物の全体か部分かということだけではない。「“起”は同じ地点で下から高い所へ移動することを指し、一方“上”は一つ所（低い所）からもう一つ所（高い所）へ移動することを指す（徐静茜1981，p.13）[v]」という指摘からわかるように、目的地が含まれるかどうかという点においても異なる。刘月华（1988）は上の後ろに「後接する目的語が求められる（その多くは場所を表す目的語である）（p.36）[vi]」と指摘している。これは上の意味には目的地に相当する空間の概念が含まれることの裏付けとなり、上述した異なる地点での移動にも呼応する。一方、上がるアガル、上げるアゲルは自動詞と他動詞の区別はあるが、移動物の全体か部分かということと、移動の目的地が含まれるかどうかということには制限されない。ただし、経路が含まれる場合は上るノボルに変わる（柴田2002，p.19、森田1989，p.30）。

3.2　方位詞の上は必須要素

中国語では、ものの最上部の表面を表す際に方位詞の上が使われる。一方、日本語では「空間名詞と空間辞（うえに、うえで…）」型と「空間辞（に、で、を、から、まで、へ）」型という異なる形式が存在する[vii]（田中・松本1997，p.8）。上と上ウェは同形だが、各々の言語体系における重要性は同等ではない。「他の言語の『介詞＋名詞』は，中国語では時には必ず『介詞＋名詞＋方位詞』の形を用いて表さねばならない（吕叔湘1999，p.14/訳2003，p.6）[viii]」という指摘からわかるように、上は〈上〉の空間概念を表すときの必須要素である。

しかし、日本語の空間名詞の上ウェの使い方は上とは違う。田中・松本（1997）は日英対照の立場で日本語の空間名詞について以下のように指摘している。「日本語では、事物の空間関係が常識的に理解できる場合には、『空間名詞』を省き、『空間辞』のみで表現するという傾向に注目してみよう。すなわち、英語は空間関係が明らかな場合には、それを言語的に明示化せよという要請にしたがうのに対して、日本語は、逆に（空間関係が明らかな場合には、それを暗示化せよ）という要請にしたがう（p.21）」。椅子は通常「座る」ための道具である。そのため、(13) のような特殊な状況では上ウェを必要とされる。しかし、(14) に示されるように、通常の状況を描写する際に上ウェを使うと却って不自然な文になる。

(13)　a. ＊椅子ニ立ッテイル　　b.　椅子ノウエニ立ッテイル
(14)　a.　椅子ニスワッテイル　　b. ＊椅子ノウエニスワッテイル

（荒川1997，p.83）

3.3　方位詞の上は水平の表面に限らない

〈上・下〉は垂直軸に沿った概念なので、典型的な最上部の表面は水平の表面であるが、上が表せるのはそれだけではない。荒川（1997）では水平表面、垂直面、真逆の水平表面の代表格の床、壁、天井の表面を a、b、c に設定し、「英語では a ～ c ともに ‘on’（‘on the floor, on the wall, on the ceiling’）であらわし、中国語でもすべて “上”（“地板上，墙上，天棚上”）であらわすが、日本語では、「のうえ」をつけることができるのは a ぐらいで、b ではやや不自然、c ではまったく不自然である（p.91）」と指摘されている。ただし、上はすべての表面を表すことができると言い切ることもできない。上ウェを表す表面、すなわち「衣類が境目で…身体から遠ざかっていく方」か「身体に遠い衣類（李活雄・张麟声2001，p.68）」は上に訳すことができない。

3.4　方位詞の上と〈内・外〉

李活雄・张麟声（2001）にあげられた上ウェの独特の用法の「身体の内部から遠心的な方角『（の）上』（p.67）」を中国語の空間表現を使って表すと外wài に転換しなければならないことから、上と内外との関係は上ウェほど緊密ではないことが示唆される。

3.5　方位詞・方向動詞・方向補語の上と前

垂直軸に沿った〈上〉を用いて水平軸の〈前〉を表す現象の一つとして、(15) の上が挙げられる。この意味は順番が前の部分、文章や話の中で現在述べることより前の部分を表す。

（15） 这一行用斜体字排印，上下各空一行（この行はイタリック体で組み、上下をそれぞれ１行あける）（吕叔湘1999，p.477／訳2003，p.339）

この現象は空間から時間への意味の拡張にもみられる。中国語の時間詞の修飾語の示す方向性は水平軸に沿った移動という前後の方向もあれば、それと同時に垂直軸に沿った移動という上下の方向もある（蓝纯1999，p.12）。初級段階に導入した時間詞のなかで、（16）～（19）で示したように、下線の部分はいずれも過去という意味を表すが、年と天は「前後」、月と曜日は「上下」となる。後者の場合は太陽の運行、つまり地平線から昇ってきてまた地平線に向かって沈んでいく動きに関連すると蓝纯（1999，p.12）は主張している。そのほか、上流、下流という表現と同様、時間と水の流れの間の類似性に由来する説もあれば、物体が上から落ちた経験から拡張された説もある（董为光2004，p.112）。

（16） 前年/去年/今年/明年/后年
（一昨年/去年/今年/来年/再来年）
（17） 前天/昨天/今天/明天/后天
（一昨日/昨日/今日/明日/明後日）
（18） 上上个月/上个月/这个月/下个月/下下个月
（先々月/先月/今月/来月/再来月）
（19） 上上个星期/上星期/这个星期/下个星期/下下个星期
（先々週/先週/今週/来週/再来週） （作例）

この拡張現象は方位詞にととまらず、方向動詞の意味にもある。

（20） 你什么时候上北京来呀？（吕叔湘1999，p.475／訳2003，p.339）
（君はいつ北京に来ますか）
（21） 五号快上，接球！（吕叔湘1999，p.473／訳2003，p.336）
（５番速く前へ、ボールを受けろ）

（20）の「上」はその一例である。これは「行く、出かける」に訳され、「最初は水平的移動ではなく心理的上向きの移動を表すが、“上”の意味の拡張につれ、今は“去”の用法に近い（于康2006，p.24）[ix]」ということになる。（21）は物理的に前方にある目的地に移動する動作に変わったが、心理的移動の部分が含まれない。

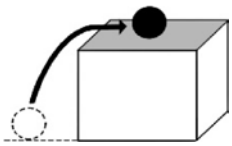
４． 上の複合的語彙ネットワーク

本章では、第三章で述べた先行研究の様々な指摘をまとめ、上の語彙ネットワークを構築し、一貫した説明を行うことを試みる。方向動詞・方向補語の語彙ネットワーク（于康2006、任鷹・于康2007）はあるものの、そのなかには上の意味しかのせられていない。本稿では、上の意味を主軸にしたうえで、類義語も入れ、複合的語彙ネットワークを構築していく。Langacker（1987，pp.144−146）の心的走査を理論ベースにし、方位詞、方向動詞と方向補語の意味を全て一つの語彙ネットワークに収めることにする。同じ出来事について、話し手は順次的走査と総括的走査と異なる認知方法で描写することができるが、前者は時間的連続性を重視し通常動詞で表し、後者は全体を強調して通常名詞で表す。品詞および認知処理の際の焦点の置き所が異なるが、出来事の枠組みは共有する点から考えると、方位詞、名詞、方向動詞と方向補語は同時に検討することができるのではないかと考え、メトニミー的拡張を中心とする複合的語彙ネットワークをデザインした。

４.１ （図１）低所から高所へ移動、その後ある場所に止まる

于康（2006，p.23、p.31）和任鷹・于康（2007）は、方向動詞と方向補語のプロトタイプ的意味を（ｉ）〜（iii）が含まれるように定義している。

（ｉ） 物体が所在の位置を離れ物理的に上方へ移動する
（ii） 物体が移動後の位置に止まる
（iii） 物体が所在の位置を離れ心理的に上方へ移動する



【図１】低所から高所への移動、その後ある場所に止まる

定義（ｉ）は常識的判断に合い、（ii）も前述した目的語の共起という言語的根拠があるので異論はない。しかし、（iii）の心理的領域は抽象的であり物理的領域から区別するべきと考え、本論文では、前の二つの項目だけをプロトタイプ的意味とする。そのイメージスキーマは図１であり、下から上への移動の全過程である。丸は移動物、矢印は移動の動作、長方形の最上部の表面は目的地を表す。

物理の世界では力は上に向かうので、抽象的な権力も同じイメージスキーマを持つ。図１は「HIGH STATUS IS UP;LOW STATUS IS DOWN（Lakoff & Johnson2003, p.16）」に基づいて抽象的な領域に拡張する。(22)〜(29) で示したように、上級機関に進言したり物を納めたりするという意味が生まれ、上と動詞の組み合わせで表現するのが多い。ここの上は、政府機

関でも、上位者でも、古代の皇帝でもありうる。

（22） 研究所将他的论文上报国家科委。（研究所では彼の論文を国家科学技術委員会に報告した。）（白水社中国語辞典＝［白］，p.1239）
（23） 下情上达（下情を上達する）（白，p.1240）
（24） 向法院上告。（裁判所に訴える。）（白，p.1241）
（25） 有一位老工人来上访，说是两个女儿被糟蹋了。（１人の年とった労働者が訴えにやって来たが、２人の娘が犯されたということであった。）（白，p.1241）
（26） 什么矛盾都上交，不着上头就不能解决问题。（どんな難問もみな上に上げ、上の人に頼まなければ問題を解決できない。）（白，p.1242）
（27） 这个厂给国家上缴了二十万的利润（この工場は国に20万円の利潤を上納した。）（白，p.1242）
（28） 那边迟迟不发调令，后来才知道他没有上供。（あちらがぐずぐずして人事異動を発令しなかったが、後になって彼が贈り物をしなかったことがわかった。）（白，p.1241）
（29） 上书言事（皇帝に上書して国家の大事について建議する）（白，p.1245）

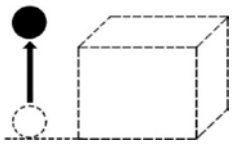
ところで、日本語にも「上呈する、上申する、申し上げる、上達する、上納する」のような類例がある。そのほかに、「めしあがる（请享用）、さしあげる（给、赠与）」も関連表現といえよう。大切な方に物を差し上げる状況では「奉上」「献上」「呈上」という表現があるが、「送、给（送る、あげる）」と尊敬語「您」という単純な組み合わせだけで意味が十分に伝わるだろう。

もう一つの拡張的意味は「达到、够、实现（～に達する）」である。図１にある目的地が抽象的な数量、程度、予定目標に変わるために生まれたものである。これは移動の動きを状態の変化に譬えられたことにも関係するのだろうか。数量の場合は（30）に示されるように、上るノボルにも類似する意味を持つが、程度を表す（31）と予定目標を表す（32）に対応する日本語の空間表現がない。

（30） 耗资上亿元（一億円にのぼる出費）（講談社中日辞典＝［講］，p.1396）
（31） 妈是上了岁数的人了。（お母さんはもう年寄りだ。）（白，p.1379）
（32） 现在家家都买上电视机了。（今ではどの家でもテレビが買えるようになった。）（白，p.1238）

4.1.1 （図1－1）（同じ地点で）低所から高所へ移動

中国語の母語話者にとっては、上に向いて移動した後に何らかの目的地に止まるかどうかは空間概念の認知処理の一連のプロセスである。前述したように移動の結果としての目的地を包含するのは上であり、その類義語の起qǐにはない。移動物と上向きの移動動作は変わらないが、目的地が認知の背後に隠れたので、図1の目的地に相当する部分が真っ白と破線に変わり、イメージスキーマは図1－1のように示される。

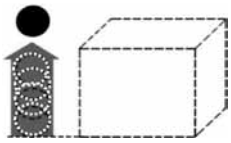


【図1－1】（同じ地点で）低所から高所への移動

一方、手や頭などの体の一部をあげる動きや、踏切の柵があがる動作のような部分的移動は、移動物の一部しか変わらないという点で少し違いがあるが、目的地を重視しないことと、起qǐで表すことで同じなので、図1－1に分類した。このイメージスキーマは、「気分」の概念領域に拡張することができるが、(33) で示したように高gāoに変わる。たとえば「気分上々」の「上々」の訳語は「(情绪）高昂、高涨、激昂」がある。

(33)　大家的情绪更加高涨。（みんなの意気込みが一層盛り上がる。）（白，p.430）

4.1.2 （図1－2）（経路に沿って）低所から高所へ移動



【図1－2】（経路に沿って）低所から高所への移動

日本語では経路が強調される上向きの移動を表す上るノボルがあり、そのイメージスキーマは図1－2で示される。螺旋状の破線は一つずつの段階を表す。

図1－2のイメージスキーマは同じ「低いところから高いところへ移動する」意味を持つ類義語の升shēngで表す。(34) で示した升起のほかに、升上、升腾、窜升などもある。火の手、煙、霧、蒸気が主語になることは多く、日が出ることも升で表現する点で上るノボルと同じである。

(34)　村子上空升起缕缕炊烟。（村の上空には炊事の煙が幾筋も立ち昇る。）（白，p.1273）

升は階級の概念領域に拡張することができ、(35) で示したように、「進学する、進級する」を表すことができる。そのほか、日本語の「昇進する」と同じように、副教授から教授へのような等級の変化も升、升上、晋升（为）で表現する。低い級を高い級にすることを表す場合は、ものを引っ張るというイメージで提（引っ張りあげる、推挙する)、拔（引っ張り出す、選り抜く）を使うこともある。例として提升、提拔/拔擢/选拔がある。

（35） 这几个学生恐怕不能升级。（この数人の生徒は進級できない。）（白，p.1273）

一段一段とあがる状況でなければ、升を使わず、上や进で表現するのがふさわしい。ところが、両者も全く同じということでもない。中国語を学ぶ日本語母語話者はよく「大学に進学する」という母語の感覚で「进大学」と言うが、特別な文脈がない限り、上が優先的に使われる。例えば、我进大学时，所有的课都变成了网课（大学に入った時に、全ての授業はオンライン授業に変わった）という文のなかの「我」は2020年以降の入学者なら問題ないが、それより前の上級生ならば不自然に感じられる。また、进は場所表現と共起することができない。「在东京上大学（東京の大学に通っている）」とは言えるが、「在东京进大学」は不適格な文になる。

升shēngと提tíは温度、水位、圧力、能力、価格など数量にかかわる変化を表すこともできる。(36) に示されるようである。量が増えれば増えるほど、計量器に付けられた目盛りが上に行き、数量の概念にも一段一段と高くなる意味が含まれるため、図１−２のイメージスキーマに分類される。ただし、上がるアガル、上げるアゲルで表現する点で前の段落の記述内容と違う。

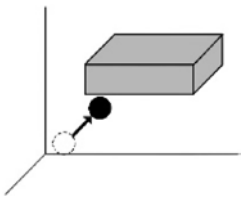
（36） 今天的温度比昨天稍有上升。（今日の気温はきのうよりやや上がっている。）（講，p.1401）

一方、涨潮（潮が満ちる）という表現からわかるように、水位の上昇は (37) の涨zhǎngで表すこともできる。反義語は退、下、跌、减などである。これは価格の領域にも拡張され、上涨や高涨などの言い方がある。

（37） 水位急剧上涨。（水位が急激に上がる。）（白，p.1247）
（38） 物价上涨。（物価が上がる。）（白，p.1247）

４.１.３ （図１−３）前方の目的地へ移動

「前へ」の移動動作だが、空間概念の〈上〉を表すことばで表す言語現象は珍しくない。そのイメージスキーマは図１−３で表されるとおりである。「上へ」から「前へ」に変わったのはイメージスキーマで解釈すれば、イメージスキーマの変換、つまり垂直軸が水平になることに由来する。ただし、「上り列車」の「上り」が示されるように「『上』が投射されるのは『前』そのものではなく、『前』



【図１−３】前方の目的地へ移動

あるいは『前方』が象徴するものというべきであろう。そして、『前（方）』が象徴するものとは、…価値の中心である（瀬戸1995，p.256）」。先行研究であげられた「上北京」の上が心理的移動を表すのは、首都北京の政治的優位性から来たものである。

上の心理的な移動は次第に一般化され、(39) の友人の家というような価値の中心という意味を帯びない目的語と共起し、身体の向かう方向への移動の動作しか表さず、「前（方）へ」という意味に変わった。

（39） 你上哪儿啊？ 上朋友家。（君はどこに行くの？ 友人の家へ行く。）（白，p.1237）

(40) で示したように御手洗いに行くという移動動作も上で表す。中国各地の墓から出土された豚便所型明器の中の「人糞落下式豚便所」は便所が上、豚舎がその下という構造を持つ（西谷2001，p.82）。この構造に限っていえば、一部の古代の中国人にとっては、御手洗いを行く度に階段に上るため、その動きが上shàngの持つ意味と合致し、正真正銘の上向き移動を示すことになる。しかし、建築様式の変化につれ、現在、御手洗いに行く動作は「前へ」の動きとなったため (40) は図１－３に属すると判断した。

そのうえ、上の例とやや違い、(40) の上に含まれる「行く」の意味が薄く、メトニミー的拡張によってフレーズ全体で「用を足す」ことを表す。去qù（行く）には同じような拡張がみられない。そのため、「你去哪里？」という問いに対し「我上厕所」と答えると不自然に感じられる。類例の「上坟」も同様に、墓に行くのではなく、墓参りするという意味が優先的にとらえられる。

（40） 上厕所（トイレに行く）（講，p.1396）

上も去quも行くという意味を表すことができる。心理的移動の例を除き、筆者の感覚では意味にははっきりした差がない。しかし、起点と終点を含めて考えると違いが現れた。「彼はどこから出発したの？」という問いに対し、「台北だよ」と答えようとする時に、「他（是）从台北去的」は正しい文だが、「他（是）从台北上的」は非文になる。プロトタイプ的意味と同じように目的地を表す表現が欠かせないのである[x]。ただし、目的地を文に入れたとしても、「??他（是）从台北上东京的」も座りが悪いことから、「前（方）へ」という意味に拡張すると、上はほかの移動要素と共起しにくくなるのでないかと思われる。

「行く」を表す上は、学（学校）、班（職場、勤務時間）、课（授業）という抽象的な空間表現と共起することもできる。「上学」は (41) の「到学校（学校に行く）」のほか、(42) の「开始到小学学习（小学校へ入学する、学校にあがる）」を表すこともできる。

（41）　我每天八点上学。（私は毎日８時に登校します。）（白，p.1246）
（42）　这孩子上学了没有？（この子は学校に上りましたか？）（白，p.1246）

（43）は勤務に「出る」という意味もあれば、勤務を「行う」という動作の開始という意味もある。「上课」も同様に、文脈によって「授業に出る、授業を受ける、授業が始まる、授業がある」に解釈を変えることができる。これらの表現は空間的意味と時間的意味の架け橋である。一方、上がるアガル、上げるアゲルはこのような意味の拡張がないため、日本語訳からわかるように、内外の空間概念に置き換え「出」に訳すことしかできない[xi]。

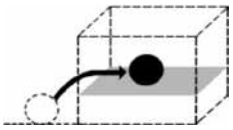
（43）　每天上午八点上班，下午五点下班，星期天不上班。（毎日午前８時に出勤し、午後５時に退勤し、日曜日は出勤しない。）（白，p.1239）

空間表現が時間の領域へ拡張する際は、話し手が時間に向いて移動するなら、前方が未来、後方が過去を表す。（44）の上は、「起点から前へ」から「はじまりの時点から未来へ」と拡張したことを理解するのは難しくないのであろう。ところで、類義語の起qǐも同じような拡張的意味を有する。例としては「这事儿从哪儿谈起呢？（この事については何から話し始めたらよいやら）（吕叔湘1999，p.475/訳2003，p.310）」が挙げられる。

（44）　他们今天一见面就谈上了。（彼らは今日顔を合わすとすぐに語らい始めた。）（白，p.1238）

４.１.４　（図１−４）隠れの三次元空間への移動

上に後続する目的語のなかには車、船、飛行機等の乗り物がある。これらのものは密閉容器のような三次元の空間なので、移動は実際には外から中へという動作だが、中国語では上で表すことができる。この拡張的意味のイメージスキーマを図１−４で表す。



【図１−４】隠れの三次元空間への移動

乗り物は通常地面より若干高いため、地面から乗り物に乗り込む動作は上向きの移動となる。したがって図１−４は、乗り込みの移動動作を用いて乗り物の内部に入ることを表すというメトニミー的拡張から派生したものである。ここで、空間の内部に入る意味を表す代表格の进と比較してみる。进车里（車の中に入る）とは言えるが、上车里は成立しない。里lǐと共起しないことから考えれば、図１−４には三次元空間の境界線が隠されることが示唆される。この密閉空間の境界線は

心理認知プロセスの背後に隠れたので破線で示す。日本語では乗り物に乗ることを描写するには上がるアガル、上げるアゲルではなく乗る、搭乗する、乗車する、乗船するなどの表現を使う。乗chéngという漢字は中国語にもあり、「乗车、搭乘专车、乘坐第89号列车」などのように使用する。乗车chéngchēには坐车と同様に「車で」という意味も含まれるため、文脈によって上车に置き換えられない場合がある。

認知過程の背景になった三次元空間は舞台や試合場所に変えることもできる。ここの上もまた内外の概念の表現に関わる。

（45） 这一场戏你从中门上，我从旁门上。（吕叔湘1999，p.473/訳2003，p.336）
（この場面は君が中門から登場し、私が横の門から登場する）

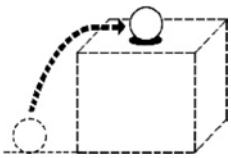
（45）の上场（役者が舞台に、選手がコート・グランドに登場する）は図１－４にも適用できる。上场の上を内外の概念の表現に置き換えると出chūとなる。第三者としての観客がいる舞台や試合のコートに入ると、観客の前に現れたということで、出に置き換えられるのではないだろうか。

これを抽象的なメディアの領域に拡張すると、俳優、女優やニュースが表に出ることを表すことができ、例として上镜（映画やテレビに出演する、カメラ映りが良い）、上报（新聞に出る、掲載される）が挙げられる。類義表現の「出镜」はあるが「出报」はない。ただし、「八卦杂志刊出他的不伦恋（ゴシップ誌は彼の不倫に関する文章を載せた）」の「刊出」で示したように、内外の空間概念はニュースの報道の描写に通用できないのでもない。以上をまとめると、上场、上镜、上报の上には、隠れ三次元空間の内部への移動動作と同時に、出現という意味合いも含まれる。

ところで、図１－４のようなイメージスキーマは上がるアガルの拡張的意味にもみられる。友人が家に遊びに来た時の「お上がりください」はその例である。同じイメージスキーマだが、目的語の意味領域は乗り物ではなく家屋なので、中国語の上に訳さず、内外の空間関係を基づいた进を使う。

４.２ （図２）物と表面の接触

物体が低所から高所へ移動してそこに止まった後に、そのところに接触するという状態について考える。中国語母語話者の認知プロセスでは、接触にフォーカスする傾向が強く、ここから様々な意味が派生した。イメージスキーマは図２で表す。接触の状態が前面に出され、移動の動きが認知の背後に隠れたので、矢印を



【図２】物と表面の接触

破線にした。この状態を表現する場合、接触の緊密度によって、以下の状況が分けられると考えられる。（a）闭合（閉じる）（b）增添（加える、添える）（c）捆绑、旋紧（縛る、締め付ける）（d）填塞（詰める）（e）安装、镶嵌（取り付ける、はめ込む）（f）涂抹、沾粘（塗りつける、貼りつく）。

（a）と（b）の状況では二つ以上のものが「合う」か「のせる」というイメージで近寄り一つになったことを表す。両者の違いは平らな表面であるかどうかにある。いずれも外力ですぐ分けられるので、接触の緊密度は最も低い。例として、窗户关上了（窓がぴったり閉まった）、挂上电话（受話器を置いた＝電話を切る）、戴上手套（手に手袋を添える＝手袋をはめる）などがある。

（c）の状況では二つ以上のものが近寄って締めるというイメージで一つになったことを表す。接触後にも強く引っ張ったりひねったりして、緩みのないようにするプロセスを経るので、（a）や（b）に比べると緊密度が一層高い。捆上（縛り上げる）、上闹钟（目覚まし時計をかける）などが例としてあげられる。

（d）の状況は接触後の強い力があるという点では（c）に似ているが、内外の空間概念と絡み合うところでは異なる。この場合は、差し込むというイメージで一つのものをもう一つの物の中にはさんだりしているさまである。代表例としては塞上（塞ぐ、栓をする）がある。

（e）の状況になると、二つの物体が分けられないことを前提とし、とりつけるというイメージでひとつの物をほかのものに装着する意味に変わる。装上（とりつける）、镶上（はめこむ）のような例があげられる。

（f）の状況では接触の緊密度が最も高く、くっつけるというイメージでひとつのものが他のものから離れないようにする。前者の（e）は無理に分けられないこともないが（f）は一段とハードルが高く、原状回復できない可能性がある。代表例として貼上（はりつける）、涂上（塗る）がある。

上述した六つの状況は中国語では上を付け加えることによって接触の意味合いを強調することができるが、日本語にはこのような意味拡張が存在しないので、訳すときに状況によって違う動詞を使う。日本語訳としてよく使われる表現を表２にまとめている。

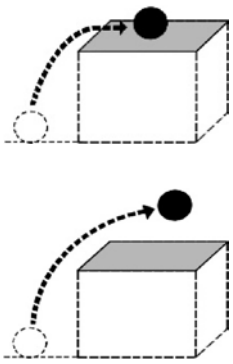
【表２】接触を表す上の日本語訳の代表例 （筆者作成）

接触	物理的	心理的
闭合	合う、閉める、閉じる、ふさがる	会う、出くわす、ぶつかる 愛する、気に入る、選ぶ
增添	置く、かける、覆う、かぶせる 着る、履く、かぶる、はめる 踏む	足す、加える、付け加える、増やす、添える、取り添える
捆绑 旋紧	巻く、巻きつける、からみつける、締める、くくる、縛る	
填塞	差し込む、ふさぐ、挿す	
安装 镶嵌	つける、はめる、はめこむ	
沾粘 涂抹	つける、貼り付ける、くっつける、付着する、塗る、塗りつける、（火を）つける/書く、書きつける、書き留める、署名する	

図２による意味拡張は抽象な心理的領域にも及んでいる。中国語母語話者にとって、ふたりがお互いに惹きつける状況は物体間の引力に似ており、一種の心理的な接触である。そこでドアや窓の扉の開閉と同じように、人に惚れたり好きになったりする気持ちを喜欢（好き）や爱（愛する）の後ろに、上をつけて表現する。

４.３ （図３）物の最上部の表面

イメージスキーマ図１にある移動動作に相当する矢印をとると、静的な上下の位置関係となる。図３で示されるようである。認知の背景に隠された移動の動作が破線に変わり、上の文法的機能も方向動詞、方向補語から方位詞や名詞になる。鳥が空を飛ぶことや飛行機が広場を横切る状況だと、移動物と地面は非接触的である。静的な上下の位置関係のなかでは、二つの物体がかならずしもくっついているとは限らない。地球の重力の関係で非接触の位置関係は有標なので、これを下位拡張とし、図３−１で表す。この場合は、上だけを使うと場合によって意味があいまいである。（46）で示したように、架（橋などを架かる）という動詞の意味の影響で上だけを使っても誤解を招かないが、意味がほとんど同じである、（46b）の合成方位詞の上面 shàngmiàn、上边 shàngbian のいずれを用いるほうが確実であり、（46c）の上方 shàngfāng（上の方）を使うとより一層意味が明確



【図３−１】物の上方の空間

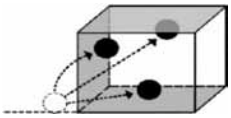
である。一方、通常接触としてとらえられやすい机と物の位置関係の場合は、上方を使わない限り正確に伝えることが難しい。（47c）の位置関係は（47a）と（47b）で表すことができない。

（46） a. 河上新架了座桥。（川の上に新しく橋がかかった。）（講，p.1401）
b. 河上面/河上边 新架了座桥。（作例）
c. 河的上方 新架了座桥。（作例）
（47） a. 桌子上放了几本书。（作例）
b. 桌子上面/桌子上边 放了几本书。（作例）
c. 桌子的上方放了几本书，下方没放什么东西。（机の上には本が何冊置いてあるが、下には何も置いてない）（白，p.1241）

4.3.1 （図3−2）物の外部の表面

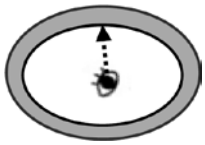
上の意味は上下移動の基本となる垂直軸に縛られないことについては先行研究で既に言及された。上shàngは図3−2で示したように、水平の表面も、縦の表面も、真逆な水平の表面も表すことができる。上述の表面は上ｳｪに訳せない。

一方、上ｳｪにも表面という意味を有する。それは皮膚と洋服や洋服と洋服の間の位置関係から生じた空間である。表面という名称は同じだが、両者が含まれる表面の空間概念は異なる。中国語に訳すときに内外の空間概念に一度転換し外面（外）、透过（〜透かして）を使って表現する。この訳語が外面wàimiànになったことから、上ｳｪが空間概念の内と外にも絡み合うことが示唆される。



【図3−2】物の外部の表面

包まれる物のなかの二つの層の位置関係を〈上・下〉と認識するために、図3−2−1で示されるように、目線を物の内部の中心に据えなければならない。話し手は目線を物の中心に置き、そこから上を向いて近い層と遠い層をみてはじめて両者の位置関係が上下になる。つまり、上ｳｪは〈内・外〉を前提とする。宮島（1972）では上ｳｪのプロトタイプ的意味を「地球の中心に近いほうが〈下〉であり、そこから遠ざかる方向が〈上〉である（p.250）」と定義づけている。上ｳｪの意味構造の根本的な部分は上shàngと異なり、隠れた三次元空間での上下の方向や位置ということは、宮島の定義によって裏付けられた。



【図3−2−1】上ｳｪの外部の表面

4.3.2 （図3−3）物事が存在する所を広く指す

上は柜台（カウンター、売り場）のような一部の物名詞に後続すると多義的になり、カウンター（台そのもの）の最上部の表面と、売り場、コーナーというカウンターの周りの空間のいずれも表すことができる。後者のイメージスキーマは図3−3で示す。

図3−3は抽象的な出来事の領域にさらなる拡張を行うと、(48) のような某方面（分野、方面)、某事的范围（物事の存在する範囲）という意味が生じる。同じ拡張は日本語にもあり「うえで」などの形式で表すが、置き換えられないケースも少なくない。例えば (49) の酒はメトニミー的拡張によってお酒を飲むことを表す表現にもなるので、直訳の訳語の「酒上的失敗」は成立せず、「因喝酒而捅出的娄子」と意訳する[xii]か、酒の前や後にほかの表現を付け加えて表現するしかできない。

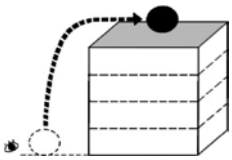
(48) 他在语法上下了很大功夫。(彼は文法の面で多大の努力を払った。)（白，p.1239）

(49) しかし、多少社会的に責任ができる頃になると、酒の上での失敗が、命とりになることが、しばしば起こります。(李活雄・张麟声2000，p.70）

4.4 （図4）高い位置

上は高いところという意味もある。この場合の文法的機能は名詞であり、方位詞と違い、「単独で用いる。‘下’と呼応させる。対句的な慣用表現が多い（吕叔湘1999，p.334/訳2003，p.334)[xiii]」。

図4で示したように、物体から離れた低いところに焦点が据えられ、そこからみるイメージである。さらに、抽象的な地位の領域に拡張され、人間関係における上位の者という意味が派生した。これも日中両言語の共通項である。日本語ではよく上司を「上の人」と呼ぶが、中国語では「複音節化の現象に伴い、…『上面的人』という複合形が使われる（李活雄・张麟声2001，p.70)」ということになる。

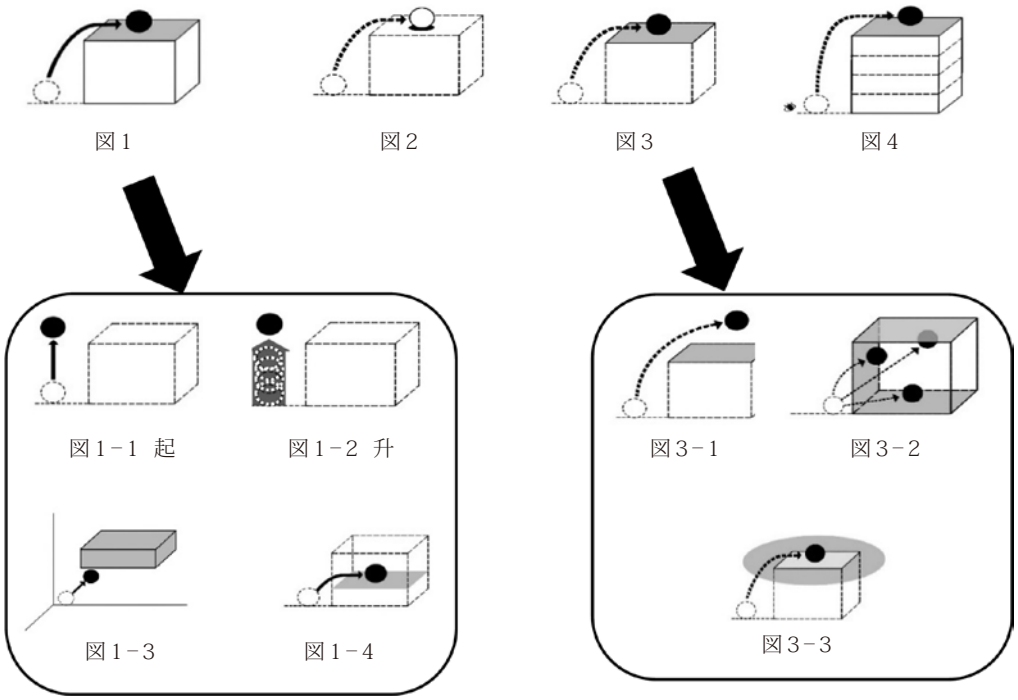


【図4】高い位置

5. おわりに

上shàngは日本語においても中国語においても多義語である。漢字が同じで意味も類似するようにみえるが、プロトタイプ的意味、また周辺的な意味への拡張が完全に一致しないので、学習者の書いた文には不自然な表現や誤用がしばしば見られる。語のすべての意味の本質は互いに関連しあうネットワーク状をするものである。語彙教育、特に多義語の指導においては、従来の辞書に列挙された意味を利用する方法論では限界があり、対象語の妥当な意味構造の分析が不可欠である。語彙ネットワークのメリットは、すべての意味の関連性が可視化されるこ

とにある。別々に学習していると気づかないレベルの差異であろう。この差異は、母語話者の認知パターンの違いでもある。習得言語の語彙ネットワークを言語教育に導入すれば、自分の母語で形成された認知パターンは、決して世の中に唯一のものではないと、学習者に気づいてもらうことができる。言語や文化の多様性を念頭において言語を学べば、母語と習得言語の間にある思考法のずれを意識できる。母語の語彙にはない新しい意味の習得や、間違えたときの自己修正が容易となり、自ずと誤用も減るだろう。「『使える』レベルに外国語が習熟するためには語彙の量だけではなく、語の意味の深い理解、運用についての知識を持つことが必須なのである（今井2014，344）」という指摘からわかるように、意味と意味の関連性を知ると、深い学びにもつながる。よって、本論文では、日中語彙の意味の対照で、〈上〉の空間概念を表す日本語の関連語彙の意味と比較させながら、中国語の上の複合的語彙ネットワークを構築した。



【図5】上の複合的語彙ネットワーク

これまで語彙教育に語彙ネットワークを応用する提案は少なくないが、一つのことばの意味からなるが主である。本論文の語彙ネットワークは日中対照を通して構築された複合ものものであり、中国語の上という中心語の意味のみならず、それに関連する類義語の起、升の意味も含まれ、外国語を学ぶ学習者のニーズにより合うであろう。

図５は今回構築した上の複合的語彙的ネットワークである。一番左側のプロトタイプ的な意味からはじまり、メトニミー的拡張によって派生した具体的な意味とメタファーを通して拡張した抽象的な意味からなるものである。語の各々の意味は、イメージスキーマの変化とメタファー的な意味拡張とで関連づけられたという点では、ほかの語彙ネットワークと大差ないが、関連表現と比較することで、上の類義語の意味も語彙ネットワークに列挙され、その意味がどのように拡張したかが、より掴みやすくなった。本論文の分類と、先行研究にある辞書の意味との対応関係は表３に示される。

【表３】上の意味と語彙ネットワークの対応関係　（筆者作成）

図番号	本稿の分類	表１の意味
図１	低所から高所へ移動、その後ある場所にとまる	由低处到高处；由一处到另一处 （低い場所から高い場所へ行く、ある所から別の所へ行く）
図１ （抽象）		向上级呈递（上級機関・上司などに書面・意見書などを差し出す）
		达到；够一定数量或程度、一定的目的或标准 （ある数量、程度、一定の目的、規準に達する、足りる）
		把饭菜等端上桌子（テーブルに料理を出す）
図１－１	（同じ地点で）低所から高所へ移動	
図１－２	（経路に沿って）低所から高所へ移動	
図１－３	前方の目的地へ移動	向前进（前へ向かって進む）
図１－３		到；去某个地方（行く、でかける）
図１－３ （抽象）		次序靠前的，或指前一半时间或刚过去的时间。 （順序が時間的に前寄りであることや、ある時間の前半分、あるいは過ぎ去ったばかりの時間）
		到规定时间开始工作或学习等 （決まった時間に日常の仕事あるいは勉強などを始める）
		动作开始并继续下去，强调的是开始 （動作の開始と継続を表す。開始に強調がある）
図１－４	隠れの三次元空間への移動	出场（出場する、登場する）
図１－４ （抽象）		登载（掲載する）

図番号	本稿の分類	表１の意味
図２	物と表面の接触	动作有结果，有时兼有合拢的意思 （動作の結果を表す。ときには合わせる、くっつくという意味も持つ）
		加；添；施加（加える、増加する、ほどこす）
		拧紧发条（ゼンマイをきつくねじる）
		把一件东西安装在另一件东西上，把一件东西的两部分安装在一起（ある部品を物につける、二つの部品を１つに組み合わせる）
		涂，擦（塗る、つける）
図３	物の最上部の表面	物体的顶部或表面（物体の最上部あるいは表面）
図３－１	物の上方の空間	
図３－２	物の外部の表面	
図３－３（抽象）	物が存在する所を広く指す	范围（範囲）
		方面（方面）
図４	高い位置	位置高（位置が高い）
図４（抽象）		等级高或质量高（等級や質が高い）

本稿は、博士学位論文の一部を加筆、修正したものである。博論では、語彙ネットワークの研究手法を日中対照言語学に応用し、方位詞、名詞、方向動詞、方向補語の上shàngの共通の語彙ネットワーク及び、上ウエ・アガル・アゲルの共通の語彙ネットワーク（嚴馥2010）を別々に構築したうえで、両者の比較を行った。その結果、上shàngの意味拡張は接触という概念から派生する現象が目立ち、上ウエ・アガル・アゲルの意味拡張は内・外の空間概念も持つことが明らかになった。時間の派生的意味が正反対であることについても一貫性のある説明が行われた（嚴馥2011）。

「全体と部分」という統一的な概念を用いて意味と意味をつなげたが、ここでは先行研究で言及された類義語については言及せず、「上」という漢字の意味や用法に限った。類義語の語彙ネットワークも入れて考察すると、完全には整理しきれないほど意味の関連性が錯綜していることに気づき、研究の対象から外したのである。前述の語彙ネットワークの集約によって、対照言語学への応用の原型はできたものの、類義語の意味は含まれていないため、研究の結果は十分とはいえない。また、二つの共通の語彙ネットワークを用いて比較したことで意味拡張の最も顕著な特徴は説明できたが、各々のイメージスキーマに分類されたことばの訳語の非対

応関係を検討することができず、残されたままとなっている。

上記の問題点を解決するため、本稿では新たな語彙ネットワークのモデルを構築することを試みた。同じ手法だと研究の結果が複雑化しすぎ、かえって理解と説明が難しくなるのではないかと考え、二つの共通の語彙ネットワークの比較を、一つの複合的語彙ネットワークに変えることにした。上shàngの意味に絞って論を進めることにし、各々の類義語や日本語の関連表現の意味の全体像については触れず、イメージスキーマの相違点と訳語のずれのみを示した。それから、「全体と部分」という意味をまとめる手法は変わらないが、本稿の着眼点は上shàngとその類義語との相関関係に置いている。今回の分析によると、プロトタイプ的意味は「低いところから上向きの移動動作を経て高い所に着く」というプロセス全体を表すものとし、それ以外のものはプロセス全体の一箇所に焦点を絞ったことによって生じた意味とみなされる。全体から部分への変化は抽象的な概念領域への拡張に関連付けられ、最終的に一つの複合的語彙ネットワークが形成されるということである。

注

[i] 中国語の上は方位詞、名詞、方向動詞、方向補語としての単純方位詞の上とともに、合成方位詞の上边、上面、上头の意味や用法も含まれる。

[ii] 本文で挙げたモノ名詞のほかに、（ⅰ）の語は意味に空間性があるものの、文法的には空間性を持たないため空間化する際に方位詞も欠かせない。一方、（ⅱ）の語は物としても場所としても捉えられるため、方位詞はあってもなくてもよい。（ⅲ）の語は意味の空間性が含まれるため方位詞をつけてはいけない。

（ⅰ）【絶対必要】街（通り）、路（道）、山（山）、天（空）、草地（草原、芝生）、地板（床）、甲板（デッキ）、楼梯（階段）など

（ⅱ）【省略可能】飞机场（空港）、广场（広場）、操场（グランド）、站台（プラットホーム）、工地（建設現場）、柜台（カウンター）など

（ⅲ）【使用不可】隔壁（となり）、门口（入口）など

[iii] 『インテンシブ中国語』の８つの上は、下表で示したように違う課に導入される。

	第1課	第2課	第3課	第4課	第5課	第6課	第7課	第8課	第9課	第10課	第11課	第12課	第13課	第14課	第15課	第16課	第17課	第18課	第19課	第20課
本文							上车		大草原上	历史课上	牌子上				喜欢上				摊子上	看上 阳台上
語法覚書					桌子上						桌子上	黑板上 上 走上来			爱上			考上		

[iv] 上がるアガル、上げるアゲルは動詞のほか、複合動詞の意味や用法も含まれる。

[v] 原文は「“起”指的是动作在同一个地点从下方升高，而高指的是从一处（低处）移到另一处（高处）」である。

[vi] 原文は「通常要求后边也有宾语（多为处所宾语）」である。

[vii] 日本語の空間表現は「空間名詞＋空間辞」型と「空間辞」型のほかに、本稿の研究対象と直接に関係しない「移動動詞―テ」型（通って、横切って、向かって）もある。

[viii] 原文は「别的语言里的介＋名短语，汉语里一般用介＋名＋方来说，有时候可以不用介，但是不能没有方」である。

[ix] 原文は「它开始表示的不是平行性移动，而是一种心理性的上方移动。……随着“上”的语义变化，现在大多数用法已经与“去”十分接近」である。

[x] 後続する場所表現が欠かせないという点について、相原（1998，p.1397）にも指摘されている。

[xi] この点については、上学の上は、上班、上课と異なる。訳語は「出」が使われず、通常「登」や「入」で表現される。

[xii] 李活雄・张麟声（2000，p.70）の訳文の「在喝酒这个问题上的失败（酒を飲むという問題においての失敗）」や「喝酒方面的失败（酒を飲むという面においての失敗）」は翻訳調的だと思い、「因喝酒而捅出的娄子」に訳し直した。

[xiii] 原文は「单用。和‘下’呼应，多是对称的习惯用法」である。

参考文献

（日本語文献）

相原茂（1998）『講談社中日辞典（第三版）』東京：講談社

荒川清秀（1997）「日本語名詞のトコロ（空間）性―中国語との関連で―」『日本語と中国語の対照研究論文集』，pp.71-94

伊地智善継編（2002）『白水社中国語辞典』東京：白水社

今井むつみ・針生悦子（2014）『言葉をおぼえるしくみ　母語から外国語まで』東京：筑摩書房

嚴馥（2009）『日本語と中国語の空間表現に関する対照研究：上方向に関わる表現を中心に』大阪大学，博士学位論文

――（2010）「「うえ」と「あがる／あげる」の意味拡張に見る空間認知の類似性」『大阪大学言語文化学』19，pp.127-139

――（2011）「「あがる／あげる」と“上”の意味拡張に見る認知の相違―非〈上〉の空間概念と時間について―」『日中言語対照研究論集』13，pp.46-58

国立国語研究所（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』東京：秀英出版

柴田武・長嶋善郎・国広哲弥・山田進（2002）『ことばの意味―辞書に書いてないこと』東京：平凡社

瀬戸賢一（1995）『空間のレトリック』東京：海鳴社

田中茂範・松本曜（1997）『空間と移動の表現』東京：研究社出版

西谷大（2001）「豚便所：飼養形態からみた豚文化の特質利用統計を見る」『国立歴史民俗博物館研究報告』90，pp.79-143

氷上正・重松淳・田島英一（2000）『インテンシブ中国語』東京：東方書店

三宅登之（2012）『中級中国語読みとく文法』東京：白水社

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』東京：角川書店
渡辺茂彦（1976）「中国語の方位詞“上”」『北九州大学外国語学部紀要』29，pp.87−100

（中国語文献）

董为光（2004）「汉语时间顺序的认知基础」『当代语言学』6−2，pp.110−115
蓝纯（1999）「从认知角度看汉语的空间隐喻」『外语教学与研究』4，pp.7−15
李活雄・张麟声（2001）「日本語の「(の）上」と中国語の「上」をめぐって」『日本語学』20−1，pp.66−73
刘月华（1988）『趋向补语通释』北京：北京语言文化大学出版社
吕叔湘（1999）『现代汉语八百词—增订本—』北京：商务印书馆
——（2003）『中国語文法用例辞典：現代漢語八百詞増訂本〈日本語版〉』東京：東方書店
任鹰・于康（2007）「从“V 上”和“V 下”的对立与非对立看语义扩展中的原型效应」『汉语学习』4，pp.13−20
商务印书馆辞书研究中心编（2010）『现代汉语学习词典』北京：商务印书馆
孙全洲（1995）『现代汉语学习词典』上海：上海外语教育出版社
徐静茜（1981）「“·起”和“·上”」『汉语学习』6，pp.11−16
于康（2006）「“V 上”中“上”的义项分类与语义扩展机制」『言語と文化』9，pp. 19−35
中国社会科学院语言研究所词典编辑室（2016）『现代汉语词典（第七版)』北京：商务印书馆

（英語文献）

Lakoff, G., & Johnson, M. (2008). *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
Langacker, R. W. (1987). *Foundations of cognitive grammar: Theoretical prerequisites* (*Vol.1*). Stanford, Calif. : Stanford University Press.